



# 災害ボランティアアシンポ ジウム in 岐阜

平成30年7月豪雨災害の経験を生かす



災害に強い  
まちづくりを!



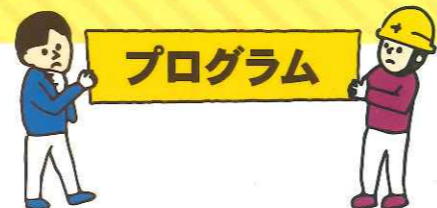
## 開催趣旨

近年、熊本地震や北海道胆振東部地震などの大規模災害が全国各地で発生し、岐阜県でも平成30年7月豪雨により甚大な被害が発生したほか、近い将来には南海トラフ地震の発生も懸念されています。

こうした中、平成30年7月豪雨では、県内外からの約7,000人のボランティアによる支援が行われ、被災者へのきめ細やかな支援や被災地の早期復旧・復興には、ボランティアの活動が必要不可欠であることが再認識されたところです。今後、大規模災害発生に備えて、県民の災害ボランティアへの興味・理解を深め、災害ボランティア活動への積極的な参加を促進していくことが重要です。

とりわけ、少子高齢化社会を迎え、大規模災害における復旧・復興活動の一翼を担う人材として、豊富な人生経験や専門的知識を生かしたシニア世代の活躍が大いに期待されます。

そこで、岐阜県及び一般財団法人地域社会ライフプラン協会では、「平成30年7月豪雨災害」や「災害ボランティア」をテーマに、被災地でのボランティア活動や地域の防災・減災活動を支えるボランティア団体の役割等についてのシンポジウムを開催します。



## 主催者挨拶

時間 / 13:00~13:10

## 講演

時間 / 13:10~14:10

## 災害とボランティア~相次ぐ災害の現場から

栗田 暢之 認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事

休憩10分

パネルディスカッション 時間 / 14:20~15:50

## 災害にも強い地域づくり・人づくり

### コーディネーター

栗田 暢之  
認定特定非営利活動法人  
レスキューストックヤード代表理事

### パネリスト

村岡 治道  
岐阜大学地域減災研究センター  
特任准教授

伊藤 三枝子  
清流の国ぎふ  
女性防災士会 会長

野村 典博  
特定非営利活動法人  
ぎふNPOセンター 理事長



講演講師/コーディネーター



栗田 暢之 くりたの ぶゆき

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事

平成7年阪神・淡路大震災時に当時勤務していた大学の学生ら延べ1,500名のコーディネーターとして被災者支援にあたったことを契機に、同年7月に設立したボランティア団体「震災から学ぶボランティアネットの会」の事務局長に就任。平成14年3月に同会を発展的に解消して「特定非営利活動法人レスキューストックヤード」が認証され、同法人の常務理事兼事務局長を経て現在に至る。現在までに約50か所の地震・水害・噴火等の被災地で支援活動を行う一方、災害に強いまちづくりや人づくりの各種事業にも多く携わる。「清流の国ぎふ 防災・減災センター」のコーディネーターも務める。

パネリスト

村岡 治道

むらおか はるみち



岐阜大学地域減災  
研究センター 特任准教授

防災技術に関する研究・開発・社会実装に従事。行政と専門家だけによる防災の限界に幾度も直面し、全ての人を対象とする防災啓発・防災教育の必要性を痛感。あらゆる分野の人を対象に「命と生活を守りきる防災」をテーマに事前の備えの具体的手順の普及に努める。県民の生命と財産を守るために研修、講演、訓練企画指導などに携わり、精力的に活動を行う。



伊藤 三枝子

いとう みえこ



清流の国ぎふ  
女性防災士会 会長

平成28年4月より、「清流の国ぎふ 防災・減災センター」が主催した「げんさい未来塾」に入塾。平成29年1月に「清流の国ぎふ女性防災士会」を立ち上げ、会長として就任。暮らし目線のHUG(避難所運営ゲーム)や地域の問題点を知るDIG、子どもや要配慮者のための防災など、日常生活のなかの防災力向上を目指し、講演や研修を行う。平成23年の東日本大震災、平成30年7月豪雨などでも活動を行った。



野村 典博

のむら のりひろ 特定非営利活動法人ぎふNPOセンター 理事長



大垣市生まれ。岐阜市在住。大学卒業後、岐阜県内の建設コンサルタント勤務。20年ほど前から、公共事業やまちづくりにおける合意形成や事業評価手法の検討を手がける。平成12年に森と水辺の技術研究会の立ち上げに参加。その後、法人化に伴い理事長に就任。平成17年に建設コンサルタントを退職後、NPO活動を通じ、環境保全活動、自然エネルギーの普及活動、住民主体のまちづくり活動などを実践している。平成28年より現職。

